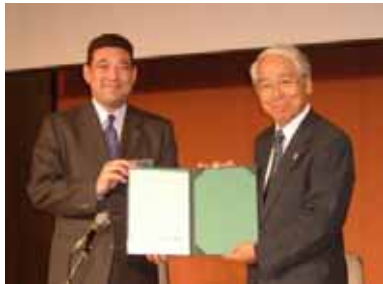


子ども未来通信 10月号



神戸青年会議所と県が「子育て応援協定」締結（10月23日）



(左)寺崎理事長・(右)井戸知事

神戸青年会議所（神戸JC）と県は、両者が一体となって子育て支援を推進していくため「子育て応援協定」を締結しました。本年度の神戸JC政策提言にある「企業による働く女性の支援」の方向性と県が進める少子対策が一致するため、神戸JCが会員企業に子育て応援企業への参加を呼びかけ、117社の賛同が得られ協定締結が実現。

井戸知事は「少子化問題を乗り越えることは県にとって重要課題。神戸青年会議所の取り組みは心強く思っている。多くの実践例を作っていただくことを期待している。」と述べ、また、寺崎理事長は「神戸JCの会員企業からはじまる子育て応援の波を日本全体に広げたい。」と決意を表明されました。（問）県少子政策課 078-362-4232

平成18年度兵庫県保育大会開催（10月21日）

加西市民会館において、「平成18年度兵庫県保育大会」が約1000人の保育関係者の参加により、地域の子育て家庭に対する支援や保育の資質向上を目的に開催。今年は日頃の保育の中で手作りされた絵本や玩具に対する県知事表彰や、地元保育士会による『ニュー加西音頭』『ふるさと民話（劇）』などの行事のあと、『衆生病むが故に我また病む』と題し、講師の原田正道老大師（岡山県曹源寺）は、「保育士は子どもたちが将来どのような人になるかを見据え、自分自身の心を整えていく努力が必要である。」と呼吸法もまじえながら、『菩薩の心』について講演。参加者は、「呼吸法を実践し、心が洗われ清々しい気持ちになった。」と心身をリフレッシュされ、子育ての場に戻られました。（問）県児童課 078-362-3199



多様な働き方研究部会（第1回）を開催（10月25日）



「仕事と生活の調和と子育て支援に関する三者合意（平成18年3月締結）」を踏まえ、多様な働き方のモデル開発などについて検討・研究する「多様な働き方研究部会」が発足し、初回の会議が開催。部会は、神戸大学大学院経営学研究科上林教授を座長に、三者（連合兵庫・兵庫県経営者協会・兵庫県）の実務者と、多様な働き方を先駆的に実践している日本イーライリリー（株）、（株）協同病理、（株）神戸デジタルラボの3社の代表者などが参画し、企業からの実例の報告を踏まえ、「正規職員の勤務時間の柔軟性と労働生産性の関係」などについて、活発な意見交換が行われました。部会では、年内を目途に、モデル開発や普及啓発の方向性の取りまとめを行う予定です。（問）県しごと支援課 078-362-9183

「認定こども園の認定基準等に関する条例案要綱（素案）」のパブリック・コメントを実施中

就学前の子どもに教育と保育を一体的に提供する機能と地域の子育て支援を行う機能を両方を備える「認定こども園」について、このたび県が認定基準条例案要綱（素案）を作成しました。この条例案要綱（素案）に対する県民の皆様からのご意見等を募集しています。

【受付期間】平成18年10月16日（月）～11月6日（月）

【資料の閲覧方法】

(1) インターネット <http://web.pref.hyogo.jp>

(2) 県民情報センター・中央県民情報センターでの閲覧 等

(問) 県児童課 078-362-3199

「認定こども園」に関する懇話会を開催

県が「認定こども園」の認定基準条例案を作成するに当たり、関係者の意見を聴くため学識者、保育所・幼稚園の設置者と保護者の代表、行政の代表で構成する懇話会が10月28日に開催されました。会議では、認定こども園の受け入れ対象となる児童、設置基準や県と市町との調整などについて議論が行われました。



「親子ふれあい交流会」を開催しました（10月22日）



虐待を受けたり、様々な事情から親と一緒に暮らすことができない子どもたちが、里親家庭で養育されています。こうした里親家庭相互の親睦と研修を目的とした全県交流会を、県立三木山森林公園で開催しました。

県内各地から総勢 180 名の親子が集まり、親子で一緒にやすりやのこぎりなどを使い木工工作に挑戦したり、広い園内を散策したり、子どもたちも芝生を元気に走り回り、笑顔の絶えない1日となりました。

また、里親の皆さんは、研修会やフリートーキングにも参加され、「里親制度の理解を深め、学んだことを、子どもたちの育成に活かしたい。」と、熱心に学ばれる姿が見られました。（問）県児童課 078-362-3182

「まちの子育てひろば連絡会議」が開催しました！（10月5日）

兵庫県では、まちの子育てひろば事業の年度後半の取り組みを推進するため、連絡会議を開催。まちの子育てひろばコーディネーターや県看護協会、県立こどもの館など関係機関の担当者が、年度前半の活動状況を踏まえた今後の取組みについて、全体会や地域別のグループ討議を行い、活発な発表や意見交換が行われました。最後に、清原県理事兼少子対策本部事務局長から、「地域でひろばがさらに充実するよう、コーディネーターの皆さんが中心になって頑張してほしい。」と今後の各コーディネーターの活動への熱いエールが送られました。（問）県少子対策課 078-362-4185

「子育てファミリー・サポートくらぶ助成事業」の助成グループを決定（10月20日）

兵庫県では、地域でのきめ細かい子育て支援を目的に、子どもの一時預かりや送迎を行うグループ・地域団体・NPOへの助成金の募集を平成 18 年 7 月 18 日から 8 月 31 日まで行い、81 グループへの助成を決定しました。年内に 100 グループへの助成を計画しておりますので、新たに一時預かり等のグループを立ち上げられる場合には、ご相談下さい。（問）県少子対策課 078-362-4185 又は各県民局県民担当

「平成 18 年度子育て応援手帳」を作成（10月12日）

兵庫県では、地域団体や住民などによる地域ぐるみで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」を推進するため、子育て支援情報や相談窓口などをまとめた「子育て家庭応援手帳」を作成。

この手帳は、県民局単位に作成し、「子育て応援ネット」のお世話役となっている「子育て家庭応援推進員」やメンバーに配布され、子育て家庭の見守り、声かけ、子育て相談などに活用されます。

（問）県少子対策課 078-362-4185



ひょうご出会いサポート事業「テニススクールツアー」開催(10月7日～9日)



社会全体で結婚を応援するために設置した「ひょうご出会いサポートセンター」の屋外での初回イベント「秋のテニススクールツアー」が 10 月 7 日から 2 泊 3 日、南あわじ市のスポーツ施設で開催され、40 名がテニスを楽しみました。参加者は、「共通の趣味やスポーツの集まりは、すぐに打ち解け、友達になれる。また、宿泊付きのイベントは、話す時間もたっぷりある」と満足されていました。

今後とも、サポートセンターでは、スポーツ教室、クルージングなど多彩なイベントを開催します。

（問）ひょうご出会いサポートセンター 078-367-3810

幹事会だより（NPO と行政の子育て支援会議）



10 月 23 日、神戸クリスタルタワー内会議室において、第 2 回幹事会を開催しました。

幹事会では、会員相互間の情報共有などを図るため、IT を活用し、会員自らが活動やイベント情報を登録・公開するシステムと会員相互の情報交換を行う SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を年内に完成し、研修後に運用することや、「子ども未来通信」

に、幹事会の活動状況を掲載することが決まりました。

次回は、11 月 27 日に開催し、会議の運営ルールや広報などについて協議されます。

（問）特定非営利活動法人さんびいす（NPO と行政の子育て支援会議代表幹事）0797-22-8896

子育てファミリー応援ボランティア講座の受講者募集

身近な地域で高齢者や主婦等が培った子育ての経験や知識を社会で発揮し、子育て応援の活動に積極的に参加できるよう、子育て応援のボランティアを養成するための講座を開催します。

【実施日時・場所】

11/8(水)～9(木) 宝塚会場（宝塚市男女共同参画センター 学習交流室）

11/16(木)～17(金) 丹波会場（丹波市柏原福祉センター 集会室）

12/5(火)～6(水) 姫路会場（県立姫路労働会館 第 3 会議室）

12/12(火)～13(水) 明石会場（明石市生涯学習センター 学習室 3）

1/18(木)～19(金) 赤穂会場（赤穂市総合福祉会館 2 階研修室）

1/30(火)～31(水) 淡路会場（県立淡路文化会館 会議室）

（問）（社）兵庫県シルバー人材センター協会 078-371-8012、県少子対策課 078-362-4185

阪神北県民局 0797-83-3136、東播磨県民局 079-421-9102、中播磨県民局 079-281-9197

西播磨県民局 0791-58-2129、丹波の森公苑 0795-72-5168、淡路県民局 0799-26-2047

地域ぐるみの子育て支援を考える「子育て応援ネット全県フォーラム」を開催します

（11月22日（水）13：00～15：40・県公館 大会議室）

兵庫県では、身近な地域を舞台に、県民、団体等がネットワークを結び地域ぐるみで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」を全県的に推進しています。こうした「子育て応援ネット」の実践事例の発表やパネルディスカッションなどを行い、地域での子育て支援について考えるとともに、協働して子育て支援を行う者同士の熱い思いを共有するため、フォーラムを開催します。



【内容】 子育て応援ネットの事例発表

パネルディスカッション「地域で広げる！子育て応援のネットワーク」

パネリスト：神戸大学大学院教授 伊藤 篤

学校法人和弘学園理事長 並川 明子

武庫川女子大学大学院 上地 安昭

【主催】 兵庫県地域女性団体ネットワーク会議、兵庫県子育て応援ネット推進協議会、兵庫県

（問）県少子対策課 078-362-4185 又は各県民局県民担当

平成 18 年度こころ豊かな美しい東播磨をめざす実践推進大会

（12月8日（金）12：30～15：00・稲美町役場 4 階コミュニティーセンター）

こころ豊かな美しい東播磨を目指して下記のとおり大会を開催します。

【内容】 東播磨ミニコンサート（保育園児による演奏等）表彰式（県自治賞、このとり賞等）

行政説明（ひょうご子ども未来プランの推進について）

講演「こどもの脳の発達と心・からだの健康」（仮題）（兵庫県立こども病院長 中村 肇氏）

【主催】こころ豊かな美しい東播磨推進会議、兵庫県東播磨県民局【後援】東播磨 3 市 2 町

（問）東播磨県民局県民運動課 079-421-9290

市町、企業、団体の活動紹介

加西市 -つどいの広場「ねひめキッズ」-

子どもを安心して産み育てられる街を目指して、平成 17 年 5 月に「ねひめキッズ」がオープンしました。利用にあたっては、登録や利用料は一切不要。施設は「砂場もある広いグラウンドに農園、雨の日でも走り回って遊べる遊戯室」と、どんな天気でも子どもたちが元気いっぱい遊びと遊べる空間スペースが確保されています。また、利用時間も「好きな時に来て、好きな時間に帰る」というスタイルであるため、市内外問わず毎日多くの親子が気軽に訪れ、楽しいひと時を過ごされています。

ねひめキッズでは「子どもはみんなで育てる宝物」をコンセプトに、さまざまな親子ふれあい活動を展開しています。この活動を通して、地域の幅広い世代の方々とも交流を図り、親子のふれあいだけでなく、親同士・子同士の友達づくりの場、情報交換の場として、さらに多くの親子が楽しく集えるよう、活動しています。また、子育て相談も随時行っており、子育て不安や悩みの解消を図っています。(問)0790-42-5710



㈱ホテルプラザ神戸(神戸市)



㈱ホテルプラザ神戸は、同ホテルでは、毎年トライやる・ウィークで中学生の受け入れを行っています。

ホテルの仕事は、実生活とオーバーラップする部屋掃除あるいは食器洗い等が基本的な仕事です。子どもたちが実際にホテルで働くことにより働くことの意義を理解し、自分を育ててくれる両親への感謝の気持ちを再認識できるよう、そして自分が何故生まれて来たのか、その意義を働くことから学び、子供を育てる事の大切さを解ってもらえればと考えております。修了後の子供たちの作文を読むと、「両親への感謝」、「人の喜びを自分の喜びとする」等、受け入れ先の意図するところを理解してくれています。(問)078-846-5400 ㈱ホテルプラザ神戸は、兵庫県と子育て応援協定締結予定です。

にしのみや遊び場つくろう会(西宮市)

「自分の責任で自由に遊ぶ」ことをモットーとしたプレーパークは、1943 年デンマークで発祥。西宮にも子どもたちが思いっきり遊べ、大人も楽しい場所が欲しいと、平成 11 年に、市民ネットワーク「にしのみや遊び場つくろう会」ができました。特徴は、子どもの気持ちにより添い見守る若いプレーリーダーたちと、子育て世代や子育てほぼ終了世代と一緒に運営していることです。(平成 15 年度より兵庫県冒険ひろば事業を受託)

同会では毎週末の常設プレーパークや、各地に出向く出前プレーパークを運営すると共に、子どもたちの現状を知り今後を考える「遊びの講座」や、子どもの目線で町を歩く「気になるウォッチング」などを開発。子育て世代だけでなく若者や熟年世代に向けても、未来のコミュニティのために子どものことを考える必要性があることを伝えようとしています。

ひろばクリエイター養成講座：11 月 23 日 10 時～12 時 塚口サンサントウン研修室

(問) 0798-22-9525 ホームページ <http://play-park.hp.infoseek.co.jp/>

編集部からのお願い

・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。環境配慮(ペーパーレス化)のためにも、メール送信にご協力ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1

(健康生活部少子局少子政策課)

TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011

E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 11月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html



近畿ブロック知事会議で少子化対策の広域連携を決定（11月13日）



近畿2府4県と福井、三重、徳島県の各県でつくる近畿ブロック知事会議が淡路夢舞台国際会議場で開かれました。会議では、開催県の井戸兵庫県知事が議長となって議事を進め、重要課題として少子化対策を取り上げ、広域連携について議論。「多数の女性の意見や考えをくみ上げるべきだ」、「若者に子育てはかっこいいと伝えることが重要」などの意見が出ました。さらに、「子育て支援・関西キャンペーン（仮称）」として、子育て中の世帯が特典

や割引サービスを受けられる制度を広域で検討することを決定しました。

第1回「子ども未来プラン推進協議会」を開催（10月30日）

市町、関係団体、NPO、企業等と県との協働により少子対策を総合的に推進するため、福祉、教育、保健・医療、子育て支援、経営者、労働、マスコミなど関係団体等の代表等27名で構成する協議会を開催。齋藤副知事が「美しいひょうご、安全・元気な兵庫を創るために、少子化対策が極めて大切」と挨拶した後、出席委員から、「結婚や子育て情報が真に必要な方に必要な時に届くことが大切」、「正規雇用と非正規雇用の格差が広がっているが、雇用のあり方は少子化と絡めて議論が必要」など活発な意見が交わされました。2回目の協議会は19年3月に開催する予定です。(問)県少子政策課 078-362-4183



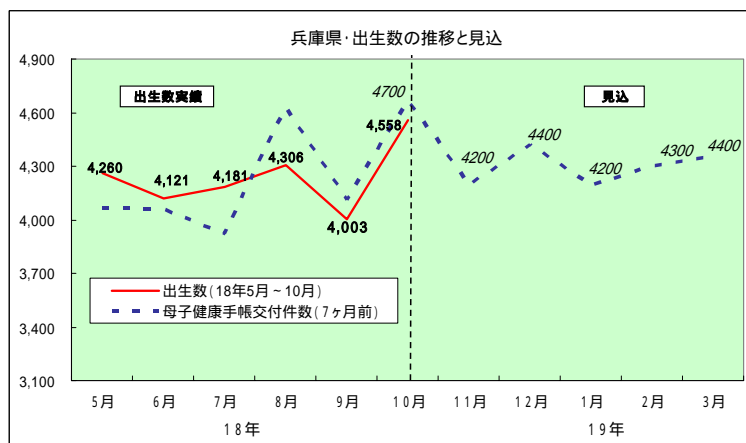
地域ぐるみで子育て応援「子育て応援ネット全県フォーラム」を開催（11月22日）



地域で女性団体や青少年関係団体などが連携して地域ぐるみで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」。その全県フォーラムが県公館で開催され、450名が参加。齋藤副知事から新たに立ち上がった15のネットワークに「子育て応援ネット旗」が授与された後、4市の各ネットワークから地域での見守りや多世代交流など、工夫を凝らした活動事例が発表されました。さらに、伊藤神戸大学大学院教授、並川学校法人和弘学園理事長、上地武庫川女子大学大学院教授らによるパネルディスカッションが実施され、「地域で広げる！子育て応援のネットワーク」をテーマに、親支援の必要性、心の教育の大切さなどについて議論が交わされました。

(問)県少子対策課 078-362-4185

県内の出生数、微増で推移の見込（母子健康手帳交付件数による推計）



県少子対策本部は、このたび市町の協力を得て母子健康手帳の交付件数をもとに、独自に出生数の今後の見込を推計。その結果によると、19年3月頃までは、出生数の微増傾向が続くと見込まれます。

なお、18年1～10月の出生数は41,503人で、前年同期に比べ2.9%の増となっています。

(問)県少子政策課 078-362-4183

神戸大学経済経営研究所と県が少子化対策の研究で協定締結（11月8日）

神戸大学経済経営研究所と県は、両者が密接に連携、協力し、実社会に直結する調査研究などを行うため、「少子化に関する調査研究についての協力協定」を締結。後藤所長と清原県理事兼少子対策本部事務局長が協定書に署名し交換しました。今後、大学研究スタッフと県関係課長等で構成する「少子化研究部会」を立ち上げ、中小企業の子育て支援策の実態や経営者の少子化に対する意識などを共同調査し、提言等の成果をシンポジウムなどを通じて県民に広く発信していく予定です。(問)県少子政策課 078-362-4183



国際ソロプチミスト神戸と兵庫県が「子育て応援協定」締結（11月16日）

地域ニーズに応じた奉仕活動に取り組む国際ソロプチミスト神戸（SI 神戸）と兵庫県が、SI 神戸主催の「少子化防止フォーラム」終了後に、「子育て応援に関する協定書」を締結し、浜田 SI 神戸副会長と清原県理事とで協定書を取り交わしました。国際ソロプチミストは、管理職や専門職として活動する女性で組織する奉仕団体で、世界 125 カ国、約 9 万人の会員で構成され、SI 神戸は日本で 4 番目のクラブとして昭和 45 年に発足。現在、「子供の命はみんなの宝」を合い言葉に児童虐待などの SOS のキャッチ運動や、地域で子育て支援活動を行っている団体や施設への支援活動を行っています。清原県理事は、「協定により連携した活動を成功させ、姉妹クラブとも協定を結ぶなど支援の輪を広げたい」と抱負を語り、浜田副会長は「安心して子どもを産み育てられる地域社会の実現に向けて、ともに努力したい」と連携強化を誓いました。(問)県少子政策課 078-362-4232



県民お産フォーラムを開催（11月19日）

産科医師の労働環境に対する理解や今後のお産環境のあるべき姿について県民と医療関係者が一緒に考え、安心して産み育てられる社会づくりを推進することを目的に、兵庫県産科婦人科学会、兵庫県、兵庫県医師会の主催で、「県民お産フォーラム - みんなでお産を考える - 」が県医師会館において、県民や医療関係者約 230 人の参加により開催。講演に続き、県民、医療関係者、行政、マスメディアの各分野のパネリストによるシンポジウムなどにより活発な意見交換がされ、お産を取り巻く厳しい環境についての再認識と自分らしいお産について考察を深める契機となりました。(問)県医務課 078-362-3251



妊婦健康診査に要する費用の助成の実施状況

7 月号でお知らせのとおり、県では、7 月から市町が実施する妊婦後期健康診査費の助成を開始しました。9 月までの 3 か月間に約 11,000 人の妊婦さんがこの制度を利用して健診を受診されています。(問)各市町の母子保健窓口または県健康増進課 078-362-3250

地域児童育成環境づくりフォーラムを開催（11月19日）

兵庫県民生委員児童委員連合会などが主催した「地域児童育成環境づくりフォーラム」が芦屋市で開催されました。アトラクションの県立三原高校の生徒による人形浄瑠璃の後、才村日本こども家庭総合研究所部長が、「地域に住む人たちの交流がなくなり、家庭が孤立し、親は追い詰められ自信をなくし、虐待をすることになる」と虐待の背景を語られ、孤立させない声かけ、地域づくりの必要性、児童委員の役割を示されました。約 700 名の参加者は、このフォーラムの宣言にある「子どもは、私たちにとって未来を託す大きな希望」を実感されました。(問)県児童課 078-362-3197



兵庫県母子寡婦福祉大会を開催（11月5日）

赤穂市において、「兵庫県母子寡婦福祉大会」が開催されました。この大会は、母子家庭の母・寡婦及び関係者が一堂に会し、母子家庭及び寡婦家庭を取り巻く諸問題について考えるとともに、多年にわたり母子福祉の向上に尽くされた方などに対する表彰や体験発表などを行うものです。今年度は、約 700 名が参加され、表彰、体験発表、地元保育士のグループによる太鼓のアトラクション、中西玄禮氏（大覚寺住職）による「母心大悲」の講演など行われ、最後に、「親と子のふれあいを大切にし、よりよい家庭環境づくりに努める」、「自立促進とさらなる自己研鑽を深めるため、地域社会への参画に努める」など、母子寡婦福祉の向上の実現のため力を合わせて取り組むことを確認しました。



(問) 県児童課 078-362-3201

ボラターン研修保育園コース報告会（10月31日）

8 月上旬から、県職員や市町職員が保育の体験を通じて、子育ての楽しさや少子化問題に理解を深めることを目的に実施された保育所体験実習の報告会が県自治研修所で開かれました。報告会では、68 名の研修生が 12 の班に分かれて、グループワークを行い、保育現場で学んだ子育ての大切さ・楽しさ、現場主義の発想の重要性などが報告され、保育関係者から、「保育体験を今後の県施策や、将来の自身の子育てに活かして頂きたい」と期待が述べられました。



大島南保育園

育児休業等両立支援の推進部会（第1回）を開催（11月8日）

連合兵庫・兵庫県経営者協会・兵庫県による「仕事と家庭の調和と子育て支援に関する三者合意（平成 18 年 3 月締結）」に基づき、「育児休業等両立支援の推進部会」が発足し、初回の会議を開催。部会は三崎兵庫県立大学経営学部助教授を座長に、三者の実務者と育児休業の取得促進に先駆的に取り組んでいる(株)アシックス、関西電力(株)神戸支店の 2 社の担当者などが参加し、企業からの事例の報告をもとに、育児休業等の取得促進に取り組むための活発な意見交換が行われました。部会では年度内を目途に、先進的な企業の取り組み事例やモデル開発の方向性の取りまとめを行う予定です。(問) 県少子対策課 078-362-4186



幹事会だより（NPO と行政の子育て支援会議）



SNS 講習会

先月号でお知らせしたとおり、幹事会では、会員相互間の情報共有の手段として SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用を進めており、11 月 22 日に、幹事メンバーで運用テストを兼ねた講習会を開催しました。

また、11 月 27 日に開催した幹事会では、組織運営について協議を行い、NPO と行政の子育て支援会議の活動を充実させるため、幹事会の下に、企画、財務、広報、会員管理の小委員会を置き、各幹事が小委員会の事務を担当することなどが決まりました。

(問) 特定非営利活動法人さんぴいす (NPO と行政の子育て支援会議代表幹事) 0797-22-8896

市町、企業、団体の活動紹介

宝塚市 - 出前児童館事業 -



宝塚市では、次世代育成支援行動計画に基づき、市内の7つのコミュニティブロック毎に整備した地域児童館を核として、7月から出前児童館事業を実施しています。より身近な場所で児童館と同じように遊ぶ事ができるよう、各児童館から職員等が出向き地域の方々とも協力しながら、児童館での行事などの一部を実施する事業で、地域の実情に合わせて常設型・派遣型・イベント型と、3つのパターンで事業を展開しています。

また、大型児童センターでは、中高生向けの出前児童館も実施しています。このような事業を実施することにより、「身近な居場所づくり」や「地域の子育て力の向上」を目指していきます。

子育てひろば「きっずらんど」(豊岡市)

子どもたちの元気な声や、スタッフ手作りの可愛らしい飾り付けが迎えてくれる「きっずらんど」は、0歳から幼稚園までの子どもとその保護者が自由に遊べる広場として、旧日高町の議員室等を活用し今年7月にオープンしました。親子が自由に楽しく遊ぶ中で、友だちづくりの機会や子育てについて考える機会、毎月開催される「子育てミニ講話」などのいろいろな活動で子育てに必要な知識や情報を提供しています。

また、多くの経験と知恵を持たれた高齢者の方の参画により、地域の力で子どもを育てる広場、地域の賑わいの広場となることを期待しています。スタッフは「信頼関係づくり」を念頭に置き、元気な親子を日々見守り続け、安全・安心の居場所、ホッとできる場所になるよう環境を整えています。



開設日：月・水・木・金（10:00～16:00）（問）0796-42-4610

モロゾフ(株)(神戸市)



クリスマスカード

モロゾフ(株)は、社員とパートタイマーを合わせると女性の占める割合が約70%になります。「女性の活躍なくして会社の成長はありえない」という考えから、女性がいきいきと働き続けられるように、育児や看護・介護に関する休暇や短時間勤務制度を充実させています。また、女性が職場で活躍していくためには、家庭において男性が家事や育児に参加していくことが不可欠であるとの考えから、男性の育児参加を積極的に勧めています。ユニークな取組としては、洋菓子の製造・販売を行っている会社なので、子育て世帯への応援として従業員の子ども達(小学校6年生まで)にチョコレートのクリスマスカードをプレゼントしています。

NPO 法人ぴっぴ(神戸市)

ぴっぴは、「育ち合う・支えあう」を大切に、平成7年から子育て支援の活動を続けています。中心となる認可外保育所「保育ルーム ぴっぴ」では、毎日の保育や一時保育をはじめ、親のリフレッシュや子の仲間づくりなど様々なケースの利用を受けており、11年間の活動で、2000人を越える子ども達の利用がありました。子ども達の笑顔と、親御さんからの「ぴっぴがあってよかった!!」の一言が何よりのエネルギーです。法人化後は、「こどもの育つ地域づくり」に取り組み、児童館や地域団体と連携を取りながら、親子コンサートやこどもまつり、小学生の野外活動クラブ、地域異世代交流農園「なかま農園」の運営などもしています。



特に農園活動は、地域の活動として定着しつつあり、地域総合新聞や、朝市、エコタウン活動などが生まれるきっかけともなりました。子どもを真ん中に置いたまちづくりが、子どもと子育て世代の支援のためだけでなく、様々な世代の活性化にもつながっていることを実感しています。

編集部からお願い

・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
 (健康生活部少子局少子政策課) TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011
 E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 1 2月号



http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html

■第1回「子ども未来プラン推進委員会」を開催（12月15日）



「ひょうご子ども未来プラン」に基づく少子対策の推進について、専門的・実務的な視点で色々な意見を頂くため、保育、教育、子育て支援、仕事と家庭の両立支援、保健、住環境などの学識者や実務者で構成する協議会を開催。小西委員長（神戸大学経済経営研究所教授）の議事進行のもと、委員から「多くの施策をやっているのだから、しっかり広報すべき」、「父親はポーズだけでなくしっかり子育てを」、「親は子どもに期待ばかりするのではなく、子どもの視点にも立って」といった活発な意見が絶えまなく交わされました。2回目の委員会は本年度2月に開催する予定です。

■労働トップフォーラムで「少子化時代における多様な働き方」を討議（12月8日）

関西の労働界のトップリーダーが一堂に会する「労働トップフォーラム」（連合近畿地方ブロック連絡会と（財）関西生産性本部の共同主催）が12月8日から9日にかけて大阪市内で開催され、その中において、「少子化時代における多様な働き方」というテーマで分科会が行われました。



分科会では、清原県理事兼少子対策本部事務局長がマクロ的な視点から少子化社会の実態と、そのことに対応する政策や政策遂行のための課題等について問題提起を行いました。この中で、「仕事と生活の調和と子育て支援に関する三者合意（ひょうご子ども未来三者合意）」や三者合意に基づくアクションプログラム等の兵庫県の取組みを紹介し、正規・非正規雇用等就労形態の問題や「多様な働き方」への労働組合の役割について、意見交換、討議が行われました。

■福祉施設経営トップセミナーで認定こども園制度を討議（12月11日）



兵庫県社会福祉協議会などが主催した「福祉施設経営トップセミナー」が神戸市内で開催され、県下の社会福祉法人の代表者等（約180名）が一堂に会しました。認定こども園の分科会では、森兵庫県少子局長が、認定こども園の制度を説明後、保育所、幼稚園、行政の代表のパネリストが、認定こども園制度の課題と今後の対応策について活発な意見交換を行いました。今回のセミナーを通じて、幼稚園機能（家庭教育の補完）と保育所機能（家庭教育の代替）、地域の子育て支援機能を有する認定こども園が、子育て家庭のニーズに応える地域の社会資源として、その機能が十分に発揮できるよう、施設関係者と行政が協力していくことを確認しました。

■神戸大学経済経営研究所と県との協定締結に係る少子化問題研究部会を立ち上げ（12月8日）

神戸大学経済経営研究所と県とで締結した「少子化に関する調査研究についての協力協定」の具体的な行動に向け、少子化問題研究部会設置準備委員会を神戸大学内で開催。その中で、研究所内に大学研究スタッフと県関係課長等で構成する「少子化問題研究部会」を設置することを決めたほか、お互いに講師となり少子化問題を議論する勉強会を、さっそく1月から始めることになりました。さらに、協定を記念して、2月17日（土）に、少子化や男女均等・女性の社会進出などをテーマに合同のシンポジウムを開催することがまとまりました。



■ひょうご出会いサポート事業「信楽陶芸村バスツアー」を開催（12月3日）



陶芸体験

力的な出会いのイベントを計画しています。（問）ひょうご出会いサポートセンター 078-367-3810

社会全体で結婚を応援するため、6月に開設した「ひょうご出会いサポートセンター」が「信楽陶芸村バスツアー」を開催。バスの中では、38名の参加者がゲームを楽しみながら目的地へ。信楽では、思い思いに土をひねり、笑い声が絶えない一日となりました。なお、サポートセンターでは、8月19日の初回イベント以降、今回のバスツアーをはじめ14回のイベントを開催し、605名参加し、36組のカップルが誕生しています。今後も、2月4日（日）の神戸港内バレンタイン船上パーティーなど、魅

■職員チャレンジプログラムで少子対策の政策提言（12月9日）

県では、職員が積極的に自己啓発を図れるよう、総合的な職務遂行能力を高める系統的な連続セミナー、ワークショップ、グループ研究を内容とする職員チャレンジプログラムを実施しています。この職員チャレンジプログラムのグループ研究最終報告会を県立男女共同参画センターで開催し、少子化、自治体経営、環境など12テーマの研究結果が発表されました。少子化のテーマでは、県民総参加で若者に健全な出会いの場を提供する「ふれあい見つけ隊の創設」等についての政策提言が行われました。提言を受けて井戸知事は、「いずれも県が直面している課題に取り組む実践的なものであり、事業化にむけて検討する」と評価を述べました。



■「ひょうご病児等緊急サポートネット(愛称：かガルーネット)」がモデル事業として尼崎市でスタート



社団法人兵庫県看護協会（大森綾子会長）は、12月1日に国の「緊急ファミリーサポートネットワーク事業」を県内で実施することを受託し、来年2月からの尼崎市の一部地域での先行実施に向けて、自宅で子どもを預かる会員（ポーター会員）の募集を開始しました。この事業は、保育所に通う子どもが急に病気になったり、子どもの病気が落ち着いたが保育所に通えないときなど親に代わって看護師・保育士等が自宅で預かる相互援助活動を実施するものです。協会では、尼崎市でのモデル事業をもとに、県内の他地域にも広げていくことを検討していきます。（問）県看護協会 078-341-0190

■「不妊専門総合相談」を行っています。

県では、専門知識を持つ医師や助産師（不妊看護認定看護師資格取得者）による無料の電話相談・面接相談を毎月行っています。不妊の悩みや治療の相談、男性不妊や不育症、思春期の性感染症や閉経後の悩み等、疑問や不安を感じたら、お気軽にご利用下さい。秘密は厳守されます。

【実施日時】（年末年始・祝日は休みます）

面接相談：第2土曜日 助産師（1/13 2/10 3/10）

第3水曜日 泌尿器科医師（1/17 2/21） 第4水曜日 産婦人科医師（1/24 2/28 3/28）

14：00～17：00 予約専用番号 078-360-8554

電話相談：第1・3・4土曜日、第2木曜日（助産師）（1/6, 11, 20, 27 2/3, 8, 17, 24 3/3, 8, 17, 24）

10：00～16：00 相談専用番号 078-360-1388

【相談場所】県立男女共同参画センター（神戸クリスタルタワー8階）（問）県健康増進課 078-362-3250



電話相談の様子

■「地域少子化フォーラム in 神戸」の参加者募集

神戸・阪神南・阪神北・淡路の各地域で、子育て家庭への支援に向けて積極的な取り組みを行っているグループや団体の代表者をパネリストに迎え、地域の現状や実践活動内容などを意見交換していただくフォーラムを開催いたします。

【日時】平成19年1月20日（土）13：30～16：00

【場所】クリスタルホール（神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー3階）

【申込先】神戸・阪神南・阪神北・淡路の各県民局地域協働課（問）神戸県民局地域協働課 078-361-8578

■国民健康保険の出産育児一時金、全市町で受取代理を実施へ

兵庫県内の全 41 市町のうち 15 市 6 町で国民健康保険に加入されている方に対する受取代理制度を実施しており、その他の市町でも来年 4 月までに実施することとなりました。この制度は、出産までに市町の窓口で必要な手続きをすれば、35 万円を限度に、国民健康保険から出産された医療機関に直接支払うものです。このため、医療機関の窓口では、出産費用から 35 万円を控除した額を支払うことにより、これまでのように出産費用の全額を準備する必要はなくなります。

少子化対策の一環として始まったこの制度について、県は制度の積極的な活用を促すため、全市町（保険者）に導入を呼び掛けてきました。同制度が都道府県内の市町村国民健康保険全てで導入されるのは、近畿では初となります。（問）お住まいの市町の担当窓口へ（健康保険組合や政府管掌健康保険などに加入されている方は、それぞれの保険者にご照会ください。）

■女性チャレンジひろばが各地で開設

県では、本年 6 月に出産、育児等により一度退職し、再び就職や地域活動等にチャレンジする女性などを総合的に支援するために、ワンストップでの情報提供・相談窓口となる「ひょうご女性チャレンジひろば」を県立男女共同参画センターに開設しました。11 月末までの 6 か月間に 1,936 件の相談が寄せられています。また、県内各市でも女性チャレンジひろばの開設が進められ、7 月に尼崎市、11 月に宝塚市、12 月に加古川市と朝来市でそれぞれ開設されました。今後も、順次開設され、支援体制が強化されます。



★『認定こども園』がスタートします！

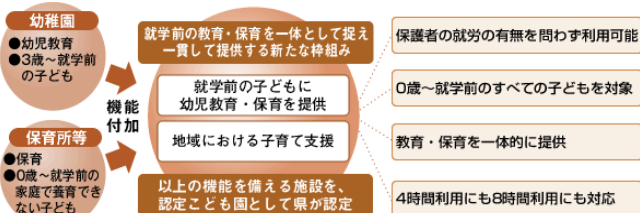
幼稚園と保育所は、保護者の就労の有無で利用する施設が限定されることや、子育てについて不安や負担を感じている保護者の方への支援が不足しているなどの課題がありました。

このような課題を解決し、幼稚園と保育所の両方の役割を果たすことができる新しい仕組みとして、「認定こども園」がスタートします。

認定こども園とは、

幼稚園、保育所等のうち、次の 2 つの機能を備え、認定規準を満たす施設を県知事が認定します。

- ① 保護者が働いている、いないにかかわらず 0 歳から 5 歳までの就学前の子どもを受け入れ、幼児教育と保育を一体的に提供する機能を備える
- ② 地域で、全ての子育て家庭を対象に、子育て不安に対応した相談活動や親子のつどいの場を提供するなどの機能を備える



※保育所等：保育所と認可外保育施設

認定こども園のイメージ

県では、この 12 月に「認定こども園」の認定基準を条例で定めて、1 月から幼稚園や保育所等から申請を受け付けます。

なお、来月号から、認定こども園に関するご質問への回答（Q & A）を掲載しますので質問を FAX で問い合わせ先にお寄せ下さい。

（問）県児童課 TEL078-362-3199 FAX078-362-0061

★幹事会だより（NPO と行政の子育て支援会議）



試験運用中の SNS

今月から、幹事会メンバーで、SNS の試験運用を始めました。まだ十分に使いこなせていませんが、スケジュール調整、各団体の活動紹介などに使用し、情報を共有することにしています。2 月の幹事会で、試験運用の結果をもとに、会員の皆様に使って頂く際の運用ルールを定め、4 月から本格運用の予定です。

（問）特定非営利活動法人さんぴいす（NPO と行政の子育て支援会議代表幹事）
0797-22-8896

南あわじ市 「地域のおじさんおばさん運動」



南あわじ市では、平成 14 年から地域の連帯感と教育力で子どもたちを温かく見守り育てようと、ハート・ブリッジ・メンバーズ「地域のおじさん・おばさん運動」を展開しています。「おはよう」「おかえり」などの声かけ、危険な遊びやルール違反をした子どもに対する注意、子どもの遊び場作りなどに取り組んでいます。この活動は、地域の人々が誰でも参加でき、一人でどこでもできる運動です。青少年育成センター、青少年補導委員会、防犯協会が中心になって各種団体に呼びかけ、現在約 9,700 人が登録しています。

最近、登下校中に子どもが被害にあう事件が多くなっています。そのため、登下校時には、交通安全指導と犯罪防止のための立ち番をして、声かけをして安全に努めています。雨の日も風の日も、この活動を続けることにより、子どもたちが安全に登下校できると喜ばれています。これからも地道なこの活動を続けることにより、青少年健全育成につながればと願っています。

三田こうのとりの会（三田市）

市内の人生経験豊かな人たちが「赤い羽根共同募金の配分金」を基金にして、ボランティアで運営する結婚を支援する会です。三田市の心配事相談員のもとに、「子どもが結婚しないので、夜も眠れない」という相談が寄せられたのを契機に、平成 18 年 6 月に発足。代表の中西さんが中心となって、民生委員や保護司などに呼び掛け、スタッフは 16 名。会員は、結婚を真剣に考えている三田市在住の男性と、三田市・篠山市・丹波市・神戸市など在住の女性で 11 月末現在 60 数名。スタッフが会員の希望日時に面談し、結婚に関する希望や職業・趣味などを伺い、毎週の例会で「この会員には、どの会員が相応しいか」を相談。相応しいと考えた男女双方の同意が得られれば、お見合いの機会を設け、立ち会います。10 月からの 2 か月間で、8 組がお見合いし、うち 2 組が婚約間近。スタッフは、「その方のこれまでの生活環境や将来設計までも真剣に考えて紹介しており、良い方に出会えたと喜んで頂けると、ますます頑張れます」とやり甲斐を語られました。（問）代表 中西政儀氏（自宅）079-568-0163 <http://www.kippy-de.net/mypage/kounotori/>



例会での打合せ

マザーズサポーター協会(神戸市)



思春期の子を持つ親のセミナー

「マザー」とは、「大地となる人」のこと。私たちは、『大地となる人のサポート』をめざしています。子どもを育てる親、生徒と向き合う先生など、「人を育てる、人に貢献する立場にある人」が大地になれば、そこに根を生やす木々（子どもや生徒など）は、しっかりと成長していくことができます。そのために、自立を目指したコミュニケーションの方法を用い、話をじっくり聴き、その人の中にある本当の力や可能性から、より効果的な行動を引き出し、なりたい自分の姿へ向かうための支援をしていきます。

今年度は通常の活動に加え、「思春期の子を持つ親のセミナー」を県内 10 ヶ所で展開中です。セミナーでは、効果的な子どもとの関わり方、親のあり方などを、ワークショップを交えながら、参加者の皆さんに体感してもらい、ともに学ぶ時間を大切にしています。「親として、いろんな思い込みで関わっていたことに気がついた」「子どもの話を聴ける親になりたいと思いました」など、100 人余の参加者から、うれしい感想を頂いています。

現在、私たちは企業に向けても、職場内で互いを尊重し合い、それぞれの力を引き出せるような関係づくりのサポートをめざして、仕組みづくりに取り組んでいます。<http://supporter.web.infoseek.co.jp/>

※編集部からのお願い

・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1
 (健康生活部少子局少子政策課) TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011
 E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 1 月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html



兵庫県少子対策本部シンボルマークを策定（1月22日）



知事定例記者会見

兵庫県では、少子対策の普及・啓発のために、「赤ちゃん幸せを運んでくる鳥として親しまれている県鳥の“こうのとり”と「のじぎく兵庫国体・のじぎく兵庫大会の Mascot “はばタン”」でデザインした「シンボルマーク」を発表しました。

このシンボルマークについては、少子対策に関する各種広報媒体や、県が2月13日に締結する企業等との「子育て応援協定書」に掲載するほか、協定締結企業等の商品パッケージなどに使用して頂き、社会全体での子育て応援の意識醸成を図るために活用することとしています。（問）県少子政策課 078-362-4232

第1回子育て応援元気アップ賞の受賞者決定（1月16日）

兵庫県では、今年度から、子育てと仕事の両立のために職場環境の充実に取り組む企業や、地域の子育てに貢献する個人・企業・団体等の取り組みを表彰する「子育て応援元気アップ賞」を創設し、受賞者39件（内訳：個人3名、企業3社、団体等33団体）を決定しました。表彰式は、1月20日に神戸市を皮切りに、県下3か所で開催する地域少子化フォーラムにおいて行います。（問）県少子政策課 078-362-4232

地域少子化フォーラム in 神戸を開催（1月20日）

「地域少子化フォーラム in 神戸」が20日、神戸市中央区のクリスタルホールで開かれ、神戸・阪神南・阪神北・淡路の4地域で子育て支援に取り組む県民ら160人が参加しました。

本年度創設された子育てに貢献されている個人団体等を表彰する「子育て応援元気アップ賞」の4地域の表彰式、清原桂子県理事兼少子対策本部事務局長の基調講演の後、「地域における子育て支援」をテーマに、パネルディスカッションが開かれ、コーディネーター、パネリストが、現状や課題を踏まえ、よりきめ細やかな子育て支援について提言をしました。



子育て応援元気アップ賞表彰式

（問）神戸県民局地域協働課 078-361-8578

「事業所内小規模保育施設設置助成金」の交付第一号が決定（1月4日）



特別養護老人ホーム
「こすもす倶楽部」

兵庫県では、仕事と子育ての両立できる雇用環境の整備を推進するため、事業所内に、国の助成金の対象とならない定員10人未満の小規模保育施設を設置する事業主に対する助成制度を平成17年9月に創設。

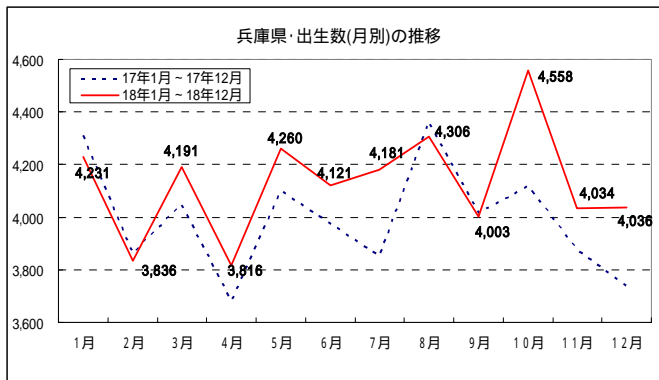
このたび、社会福祉法人ジェイエアイあいおい福祉会（相生市）が、当助成金を活用し、特別養護老人ホーム「こすもす倶楽部」内に4月1日からの運営を目指して事業所内小規模保育施設を設置することとなりました。

（問）県少子対策課 078-362-4186

平成 18 年の県内出生数は前年に比べ 3.4% の増

県統計課がまとめた結果によると、平成 18 年中の県内の出生数は 4 万 9 千 573 人となり、前年に比べ 3.4% の増となりました。

また、人口動態統計速報（厚生労働省）では、18 年 11 月までの全国の出生数が前年同期比 2.7% 増の約 102 万 8 千人となっています。



(問) 県少子政策課 078-362-4183

乳幼児等医療費助成制度の対象年齢拡大を決定（12月26日）

国の医療保険制度では、乳幼児等の負担は医療費の3割（3歳未満児は2割）と定められていますが、県と市町が共同で実施している乳幼児医療費助成制度により、医療費の自己負担を軽減しています。

兵庫県では、少子対策を一層推進するため、平成 19 年 4 月から医療費助成の対象を通院・入院とも現在の義務教育就学前の乳幼児から、小学 3 年生の児童まで拡大し、子育て家庭の負担軽減を拡充することを決定しました。

区分		医療保険制度	乳幼児等医療費助成制度
一部負担	通院	医療費の3割 (3歳未満児は2割)	1医療機関等当たり1日700円(低所得者は500円)を限度に月2日まで。 同じ医療機関・薬局等では、月3日目以降の負担はありません。
	入院		1医療機関当たり月2,800円(低所得者は月2,000円)を限度。 長期入院の場合、4ヵ月目以降の負担はありません。
所得制限		児童手当特例給付...配偶者と2人の子を扶養する場合の収入目安860万円。 0歳児には、所得制限はありません。	

(問) 制度内容の詳細については、お住まいの市町の窓口にお問い合わせください。

家族・家庭を考えるフォーラムを開催（神戸：12月18日、豊岡：12月23日）

大切な家庭の中で、虐待など、様々な問題が発生している状況や、少子化が進む中で家族・家庭の持つ力が低下している状況を踏まえ、「家族の絆を深めるための取り組み」、「家族を支える地域の取り組み」をテーマに、県の家庭応援施策を検討する「ひょうご家庭応援施策検討委員会〔委員長：野尻 武敏（ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 会長）〕」の委員と県民とが意見を交換するフォーラムを神戸市と豊岡市で開催しました。



フォーラムでは、委員会での議論の紹介後、会場から地域生活・家庭生活での実感に基づく様々な意見が提起され、活発な意見が絶え間なく交わされました。

今後、フォーラムでの意見も踏まえ、検討委員会ですらに議論を深め、委員会の最終報告が取りまとめられる予定です。

幹事会だより（NPO と行政の子育て支援会議）

12月中旬に、特定非営利法人コミュニティ・サポートセンター神戸の基金に、助成を申請し、約 14 万円の交付が決まりました。

助成金をもとに、「SNS・ニュースレターなどを活用した会員間の情報ネットワークの整備」、「NPO と行政の子育て支援会議の会員名簿の整備」、「団体の活動視察を兼ねた研修交流会の開催」を優先的に実施し、4 月頃から会員の皆さんが利用できるよう、幹事会で具体化を進めています。

(問) 特定非営利活動法人さんぴいす(NPO と行政の子育て支援会議代表幹事) 0797-22-8896

全国に先駆けて「認定こども園」の運営費を補助（12月26日）

平成 19 年 1 月 1 日に「認定こども園の認定基準等に関する条例」が施行されスタートした「認定こども園」制度。兵庫県では、民間事業者が設置する認定こども園のうち、運営費の一部を助成する制度を 4 月に創設し、同制度の普及と保護者の負担軽減を図ります。なお、市町に県と同額の補助を要請しています。

【補助制度の概要】

(1) 補助対象となる施設の類型

幼保連携型、幼稚園型、保育所型

(2) 補助対象経費

現行補助制度の対象とならない保育所又は幼稚園の運営費（下記の（A）～（D）の部分）
詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

幼保連携型

	(短時間利用)	(長時間利用)
5歳	幼稚園	保育所
3歳		
0歳	保育部分 (A)	

幼稚園型

	(短時間利用)	(長時間利用)
5歳	幼稚園	保育所部分 (C)
3歳		
0歳	保育部分 (A)	保育所部分 (B)

保育所型

	(短時間利用)	(長時間利用)
5歳	幼稚園部分 (D)	保育所
3歳		
0歳	保育部分 (A)	

(問) 県児童課 078-362-3199

『認定こども園』Q&A

Q：認定こども園には、いつから入れるのですか？

A：現在、兵庫県内で認定された「認定こども園」はありません。今後、認定された園から順次募集を行っていく予定です。なお、認定された施設の概要及び募集案内については、兵庫県のホームページ (<http://web.pref.hyogo.jp/>) にも掲載しますので、ご覧ください。

Q：子どもや保護者にとってのメリットはどのようなものですか？

A：就労の有無やフルタイム・パートタイムなど就労の形態にかかわらず、子どもを預けることができます。

たとえば、専業主婦が新たに仕事に就いたり、あるいは、働いている人が仕事を辞めても、同じところに子どもを通わせ続けることも可能となります。

あわせて、認定こども園は、子育て支援事業を必須としていますので、子どもが通園していない保護者でも子育て相談や一時保育などさまざまな子育て支援を受けることができます。(問) 県児童課 078-362-3199

「次世代育成支援対策推進セミナー」の参加者募集

働きながら子育てしやすい環境を整備するため、家庭と仕事の両立を進めることの意義や企業のメリットを説明するとともに、先進的な取り組みを行っている企業の事例を紹介し、企業の両立支援の高揚、取り組みにつなげるセミナーを開催します。

なお、セミナーにおいて、本年度から開始した子育て応援に取り組む企業（約 200 社）と兵庫県との子育て応援協定式を実施します。

【日時】 平成 19 年 2 月 13 日（火）13:30～16:45

【場所】 兵庫県看護協会会館ハーモニーホール（神戸市中央区下山手 5 - 6 - 24）

【申込先】 県少子対策課 TEL 078-362-4186 e-mail: shoshitaisaku@pref.hyogo.jp

協定締結記念シンポジウム「少子化時代を生きる」の参加者募集

神戸大学経済経営研究所と県は、昨年 11 月に「少子化に関する調査研究についての協力協定」を結びましたが、その一環として共催でシンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、経済学視点から見た少子化問題や県の取り組みの講演の後、子育て研究、労働団体代表、学生の方などによるパネルディスカッションが行われます。

【日時】 平成 19 年 2 月 17 日（土）10:00～13:00

【場所】 神戸大学神大会館 六甲ホール（神戸市灘区六甲台町 1-1）

【申込先】 県少子政策課 TEL 078-362-4183 e-mail: shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

神戸大学 TEL 078-803-7272 e-mail: office@rieb.kobe-u.ac.jp

子育て支援情報誌『わっ!と西播磨』

西播磨地域ビジョン委員会子育て支援推進チームでは、子育て支援ネットワークの構築を目指し、子育て情報誌『わっ!と西播磨』を作成しています。平成 18 年 2 月に創刊し、12 月には第 3 号を西播磨地域の保育園・幼稚園・小学校の全園児・児童、及び管内市町の子育て支援機関に総数 3 万部配布しました。手作りの情報誌ですが、掲載された施設・イベントからは「参加人数が増えた」「問い合わせがあった」などうれしい反響が多数寄せられています。また、トップ記事にはだれでも気軽に参加できるイベントを紹介しており、子どもたちの体験活動の推進にも一役かっていると感じています。これからは、子育て中の人に待ち望んでもらえるような、さらに、住民一人ひとりに「子育て支援はわたしの問題」と啓発できる紙面づくりに力を注ぐこととしています。(問)西播磨地域ビジョン委員会事務局 0791-58-2115



『わっ!と西播磨』3号

甲南大学 - 子育て支援プログラム -



「うりぼうくらぶ」

甲南大学心理臨床カウンセリングルームでは、同大人間科学研究所と共同で、「親子相談」、「親と子の遊び教室」などの子育て支援プログラムを実施しています。

「親子相談」では、就学前の乳幼児と保護者を対象に、子どもの心理面や発達面・子どもへの関わり方等などの相談を行います。また、「親と子の遊びの教室(うりぼうくらぶ)」では、臨床心理士や臨床心理を学ぶ大学院生に、保育士も加わり、お母さんや子どもと一緒に様々な遊びをしています。

今年で 7 年目を迎え、地域にも浸透し、子ども達の元気な声がカウンセリングセンターに溢れています。

㈱協同病理(神戸市)

試験研究・臨床検査を受託している㈱協同病理では継続的な社員の能力開発を進めるため、長期に渡り働き続けられる環境の整備や従業員満足度(ES)の追求による働きがいの形成を目指しています。その中心となるのが入社 3 年から 5 年までの社員による自主的なプロジェクトチームで、定期的な意識調査、社内研修会の実施や就業規則など諸制度の改善提案を行っているほか、一般事業主行動計画も自分達で策定しました。

「両立支援」といっても、若い独身社員の多い環境では切実で具体的なイメージとしてはなかなか捉えにくいですが、若い社員達が結婚・育児といった将来の生活環境の変化を自ら考え、自主的で継続的な見直しと改善の可能な柔軟な労働環境づくりを進める先頭となって伸び伸びと活動してくれることで、会社もまた社員とともに成長していけることを期待しています。



社内研修会

NPO 法人兵庫県子ども文化振興協会(神戸市)



指人形作り

今、地域の中ではますます子ども社会が崩壊し、子どもたちが自由に外遊びを楽しむ事が極端に減ってきています。子どもは仲間とふれあい、切磋琢磨されることで社会性を身に付けていく。私たち大人は子どもからそういった時間と空間と仲間を奪ってしまいました。もう一度子どもたちが育ち合う場をつくることは大人の責務です。あそびは、体を動かし、心を開放し、自分を表現し、相手を知ることから人間関係を築きます。私達が運営している指人形づくりや科学の実験などの「地域子ども教室」は、学校でもなく、塾でもなく気楽に過ごせる出入り自由な空間。そして、指導員に見守られ安全安心の居場所です。

私たちは、地域社会にどんなに小さな場所でもよいから子どもたちが安心して集える場所と、見守る大人の輪を広げて行きたいと考え、活動を続けています。

編集部からのお願い

・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。

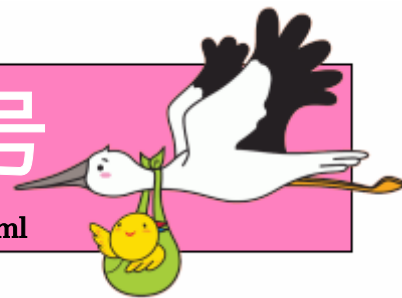
兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1

(健康生活部少子局少子政策課) TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011

E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 2 月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html



次世代育成支援対策推進セミナーで 195 社と子育て応援協定を締結（2月13日）

仕事と家庭の両立が可能な職場環境のあり方を考える「次世代育成支援対策推進セミナー」が、神戸市中央区の兵庫県看護協会会館で開かれ、企業の人事労務担当者ら約 300 名が参加した。

本年度創設された両立支援や子育て家庭をサポートする 195 社と県との「子育て応援協定締結式」の後、樋口慶応義塾大学教授が「少子化時代における企業のためのワークライフバランス」と題して基調講演。「仕事と家庭の両立を進めることが企業にとってプラスになる」と訴えた。



子育て応援企業 195 社と県が協定締結

事例発表では、(株)協同病理での社内公募の推進チームによる一般事業主行動計画策定、(株)ロック・フィールドでの事業所内保育所設置など、従業員のニーズを踏まえたきめ細やかな取り組みと、その効果が報告されました。

(問) 県少子対策課 078-362-4186

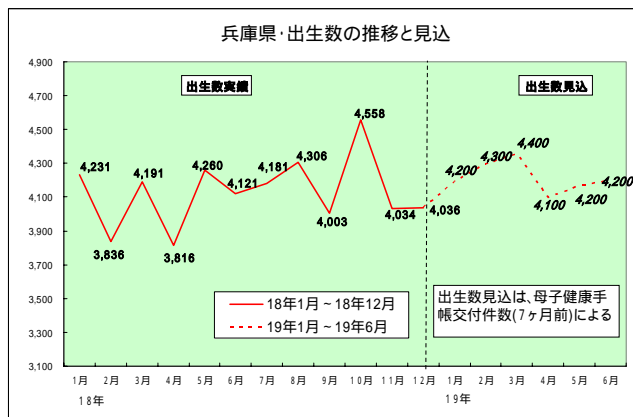
神戸大学経済経営研究所と兵庫県との協定締結記念シンポジウム「少子化時代を生きる」を開催(2月17日)



神戸大学経済経営研究所と県とが昨年 11 月に「少子化に関する調査研究についての協力協定」を締結したことを記念したシンポジウムを神戸大学の六甲ホールで開催。学生ら 200 名を超える県民が集まった中、齋藤副知事と野上神戸大学学長の開会挨拶の後、第 1 部で研究所の後藤所長が「少子化と日本経済」、県の清原理事が「協働で進める『ひょうご子ども未来プラン』」について、それぞれ講演。

続く、第 2 部では神戸大学の教授や学生、労働界の代表も参加してパネルディスカッションが行われ、社会全体で子育てを支援する仕組みづくりの大切さなど、会場の参加者をまじえて意見が交わされました。(問) 県少子政策課 078-362-4183

県内の出生数、前年並みで推移の見込（母子健康手帳交付件数による推計）



県少子対策本部では、市町の協力を得て、母子健康手帳の交付件数をもとにした本年 6 月までの出生数の見込みを推計しました。

その結果によると、前年比 3.4% の増となった平成 18 年とほぼ同様の微増傾向が続くと見込まれます。

(問) 県少子政策課 078-362-4183

姫路と朝来で地域少子化フォーラムを開催（1月31日・2月6日）

子育てのあり方を考える「地域少子化フォーラム」が、1月31日に姫路市で、翌週の2月6日に朝来市で開催され、それぞれ200名を超える県民が参加。

これらのフォーラムでは、優れた活動を実践している団体等を顕彰する「子育て応援元気アップ賞表彰式」の後、「地域における子育て支援」をテーマに、子育てサークルの代表などによるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、各パネリストが活動事例を報告し、「人とのつながりで、活動の幅が広がっている」などの活動の秘訣などを披露するとともに、「他のグループとの連携を深めたい」、「将来、親になる世代や、子育てが終わった世代にも参加を呼びかけたい」など今後の取り組みについて、意見を交わしました。

（問）中播磨県民局地域協働課 079-281-9320、但馬県民局地域協働課 0796-26-3644



腹話術を使った活動事例の報告

第2回「子ども未来プラン推進委員会」を開催（2月16日）



昨年12月の第1回目開催に引き続き、第2回目の委員会を開催。平成19年度の県の行動計画である「ひょうご子ども未来プランプログラム2007」、国の「子どもと家族を応援する日本重点戦略会議」や、ヨーロッパ諸国の少子対策の取り組みなどを踏まえ、小西康生委員長（神戸大学経済経営研究所教授）をはじめ、各委員が今後の施策推進について協議。「多くの施策を実施するとともに、県民に施策の情報が十分に伝わり理解されるような配慮が必要」、「表面的な対策ではなく、根底にある風土を変えないと、少子化を

変えられない」といった活発な意見や提案がなされました。（問）県少子政策課 078-362-4183

ひょうご出会いサポート事業「バレンタインクルーズ」を開催（2月4日）

社会全体で結婚を応援するため、兵庫県が設置した「ひょうご出会いサポートセンター」では、毎週1回のペースで独身男女に出会いの場を提供するイベントを開催しています。バレンタインデーを控えた2月4日には、豪華客船コンチェルトで「船上パーティ」を開催し、男女併せて100名が参加。神戸ハーバーランドから明石海峡大橋まで約2時間のクルージングを楽しみました。参加者は、プロフィールを書き込んだカードを交換しながら会話を楽しんだ後、お付き合いを始めたい相手の番号をカードに記入して提出。今回のイベントでは、これまで最多の14組のカップルが誕生しました。（問）ひょうご出会いサポートセンター 078-367-3810



淡路地域父親子育てフォーラムを開催（1月27日）



「淡路地域父親子育てフォーラム（洲本保育園まちの子育てひろばと淡路県民局の共催）」が、洲本市内公民館で開催され、普段、子どもと接する機会の少ない父親32名が参加。

淡路地域では、今年度、既に、淡路市、南あわじ市で開催されており、3回目の今回は、料理を通して、「子育て」や「食育」について、学び、語り合う内容で実施されました。小グループに分かれて、「スパゲティ」と「パエリア」を慣れない手つきで作りましたが、調理実習という協同作業をすることで、父親同士がすぐに打ち解け、交流を深めました。試食をしながらの意見交換では、「平日は、子どもの寝顔しか見られない」、「調理の大変さを実感した。子育てしながら家事をこなす妻をもっと手伝おうと思う」などの意見が出され、普段、地域で父親同士の交流が少ない中で、「子育て」について一緒に考える機会となりました。（問）淡路県民局洲本健康福祉事務所 0799-26-2036

「父親子育てフォーラム」は、県内10地域で開催しています。

「子育てファミリー・サポートくらぶリーダー養成講座」を県内 10 か所で開催



子育て中の親にとって、子育てを助けてくれる人が身近にいと、とても安心できるものです。そこで、県では、子育て中の親（依頼会員）と子育て支援者（提供会員）とのグループ「子育てファミリー・サポートくらぶ」の活動を支援し、子育て経験のある高齢者や主婦などを子育てのリーダーとして養成しています。兵庫県シルバー人材センター協会と連携した養成講座では、子どもの心とからだの発達、絵本の読み聞かせ方法や工作実習のほか、子どもや親との接し方などを学びます。参加者からは「いろいろな勉強ができた。この経験を地域の子どもと親のために活かしたい。」と好評で、これからの活躍が大いに期待されます。

(問) 県少子対策課 078-362-4185

「子どもたちの輝く未来を創るひょうごの大会」を開催（2月22日）

子どもが健やかに育つ地域づくりを考える「子どもたちの輝く未来を創るひょうごの大会」が姫路市の県立こどもの館で開催され、保育・教育関係者や若者ら約 300 人の県民が参加。

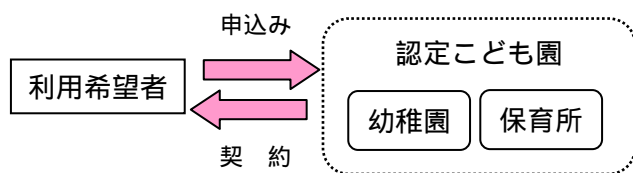


「地域づくりについて若者と本音で語る」と題したフォーラムでは、20 代の 3 名の若者がパネリストとして参加。豊岡市の学生（20）は「祖父母から学んだ文化や自然を、次の世代に伝えたい」、宝塚市のボランティアグループメンバー（21）は「仲間と音楽で地域づくりに取り組みたい」、南あわじ市職員（27）は「地域での子育て支援と仕事を両立させたい」と述べるなど、若者が果たす役割などについて、意見交換、討論が行われ、また、フォークシンガー高石ともやさんから、健やかに子どもが育つ地域づくりに向けた、「歌とトーク」による若者世代への熱く感動的なメッセージが届けられました。（問）県立こどもの館 079-267-1153

『認定こども園』Q&A

Q3 認定こども園に入園するためには、どうすれば良いですか？

A3 入園を希望する認定こども園に利用者が直接申込を行うこととなります。なお、認定こども園は、保護者の方が、働いていても、働いていなくても、また、仕事を見つけようとしていても利用可能です。詳しいことは、お住まいの市役所・町役場の認定こども園担当窓口、または、利用を希望される認定こども園にお問い合わせください。



1月号から平成 19 年 1 月 1 日に「認定こども園の設置運営等に関する条例」が施行されスタートした「認定こども園」に関するご質問への回答（Q & A）を掲載しています。質問は FAX で問い合わせ先まで。
(問) 県児童課 TEL078-362-3199 FAX078-362-0061

幹事会だより（NPO と行政の子育て支援会議）



運営委員会

2月21日（水）に運営委員会を開催しました。メンバーは、代表幹事と小委員会のリーダーで、幹事会で協議する議題の調整などを行います。

今回は、総会や会員交流会の開催、SNS の運用や広報紙の発行など、当面の事業計画について話し合いました。これらの内容は、3 月 1 日に開催する幹事会で協議することとしています。

また、NPO と行政の子育て支援会議で進めている IT を活用した会員間の交流や県民への情報発信の取り組みを「地域情報化サポーターミーテ

ィング in こうべ」で紹介することになりましたのでご案内します。

【日時】 平成 19 年 3 月 15 日（木）14:30～17:20

【場所】 兵庫県民会館 10 階「福」（神戸市中央区下山手通 4 - 16 - 3）

【申込先】 県情報政策課 FAX078-362-3046 E-mail shuuji_murakami01pref.hyogo.jp

但陽信用金庫（加古川市）

但陽信用金庫では、職員の育児を経済的に支援するため、子供が多いほど支援を手厚くすべきとの視点に立ち、扶養する子供が増えると手当も増える制度（第1子：月額5,000円、第2子：月額10,000円、第3子以降（1人あたり）：月額30,000円）を導入しています。例えば、子供が4人の場合は、配偶者手当（月額20,000円）と合わせると月額95,000円を支給します。

また、地域貢献を目的に、平成18年に子供を3人以上扶養する保護者を対象に、金利を優遇する子育て支援に特化した商品「にぎやか家族（定期預金・住宅ローン）」を創設しました。

こういった取り組みが評価され、『子育て応援元気アップ賞』を受賞しました。今後も地域金融機関の役割として、微力ながら少子化に歯止めをかける取り組みをしてみたいと考えています。

【にぎやか家族の概要】

種類	内容
定期預金	<ul style="list-style-type: none"> 預入額10万円以上1,000万円以下（最長5年まで自動継続可） スーパー定期1年ものの店頭表示利率に、子供3人：0.3%、同4人：0.4%、同5人：0.5%上乗せ
住宅ローン	<ul style="list-style-type: none"> 50万円以上5,000万円以下 当金庫基準金利から全期間0.3%優遇。他に給与振込指定やカードローンなど取引内容によって、最大1.0%の優遇



子育て応援元気アップ賞表彰式

NPO法人コミュニティ・城-神戸(神戸市)



わたしたちは、NPOを応援するNPOです。応援の内容は、NPO法の17分野で活動する個人や団体のNPO立上げ・運営に関するなんでも相談、活動資金の情報と提供、活動拠点の情報と提供の3点です。これまでに約100団体との関わりがありましたが、そのうち子育て系の団体は約1割です。未就学児保育、絵画や英語を通じた子育て、学童保育、親子遊びの場、多文化保育、シニアなど他団体とのネットワークづくりなど、オリジナルな活動をされている団体が多く、独自性と先駆性を応援できたと思っています。CS神戸の強みは子育ての実践当事者ではないこと、つまりかえって物事がよく見えたり、他とのネットワークが容易にできることです。この強みを「子育て支援会議」の活動に有効に活かし、子どもを取り巻く環境づくりに参加したいと考えています。

NPO法人コムサロン21(姫路市)

NPO法人コムサロン21では、2月2日を夫婦感謝の日にしようと活動しています。現在、問題になっている少子化、いじめやひきこもり・ニートなども、幸せで豊かな家庭環境づくりが原点にあると考え、その家庭の核である「夫婦」を祝い、ねぎらい、感謝しあう日として提唱しています。主旨に賛同いただいたたくさんの企業のおかげで、10年目になりました。特に、10回を節目として、今年から、夫婦になるきっかけも創出しようと独身男女の出会いの企画も新たに始めました。「勤労感謝の日」のように「夫婦感謝の日」が全国に広がればと思っています。



独身男女の交流パーティ

コムサロン21は、兵庫県から補助を受けて、コミュニティ・ビジネスの育成をサポートする「生きがいしごとサポートセンター播磨」を運営し、若者の自立支援を通じた少子対策にも取り組んでいます。

編集部からお願い

・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
 (健康生活部少子局少子政策課) TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011
 E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 3 月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html



「子ども未来プラン推進協議会」を開催（3月13日）



市町、関係団体、NPO、企業等と県との協働により少子対策を総合的に推進するため、福祉、教育、保健・医療、子育て支援、経営者、労働、マスコミなど関係団体の代表等 27 名で構成する協議会の今年度 2 回目の会議を開催。井戸知事が「協議会の意見等を踏まえて策定した 19 年度行動プログラムを着実に実行したい」と挨拶。その後、「様々な知恵や経験を持つお年寄りによる支援が重要」、「親育てにも力を入れるべき」など、活発な意見が交わされました。

（問）県少子政策課 078-362-4183

大学コンソーシアムひょうご神戸と県が少子対策で協定を締結（3月28日）

兵庫県内の神戸大学や兵庫県立大学など 30 大学・10 短期大学等の連携組織「大学コンソーシアムひょうご神戸（理事長：野上神戸大学学長）」と県は、協働で少子対策を推進するため、「少子対策及び子育て支援推進に関する協力協定」を締結しました。県公館で開催された協定締結式では、五百蔵副知事と野上理事長が協定書を交換。



今後、協定に基づき、シンポジウムの共同開催、学生の子育て体験事業への参加、大学の持つ資源を活かした地域の子育て支援拠点づくりの充実など、様々な連携に取り組む予定です。（問）県少子政策課 078-362-4183

三宮センター街に保育施設（キッズパルーン）がオープン（3月20日）



オープニングセレモニー

JR 三宮駅前から元町駅までの約 500mをつなぐ三宮センター街のセンタープラザ西館 5 階に買い物客や店員が利用できる保育施設がオープンしました。この施設は、三宮センター街が、兵庫県と神戸市の商店街活性化事業を活用し、三宮地区に来られるお客さんに、子どもを預けて、買い物をゆっくり楽しんでもらうとともに、店員にも子育てをしながら働くことができる環境を整備したものです。保育施設は、保育士や幼稚園教諭の免許を持ったスタッフが常駐します。0 歳児から預かり、料金は 1 時間 1,000 円。保育料は年齢や時間に応じて月約 1 万～7

万円。保育時間は、午前 7 時から午後 10 時までです。（問）㈱チャイルドハート（運営委託会社）078-783-2800

ひょうご病後児等緊急サポートネットフォーラム（3月18日）

（社）兵庫県看護協会では、保育所に通う子どもが病気になったときなどに看護師・保育士等が自宅で預かる「緊急サポート事業」を行っています。この事業の周知と、育児と仕事の両立を考えるフォーラムが県看護協会で開催、約 100 名が参加。



勝木兵庫県立大学教授の基調講演の後、育児と仕事の両立の現状と課題をテーマにパネルディスカッションが行われ、保育の現状を踏まえ、地域で子育てを支える仕組みづくりについて、活発な意見が交わされました。（問）県少子対策課 078-362-4186

「子育て3ひろば交流会」を開催（3月6日）



地域ぐるみの子育て支援をめざして、県内には、「まちの子育てひろば」1,755 か所、「子どもの冒険ひろば」290 か所、「若者ゆうゆう広場」40 か所が開設。これら3つのひろば事業について、活動状況や今後の進め方などを意見交換する「子育て3ひろば交流会 2007」が県民会館で開催され、関係者ら約 150 名が参加。

3つのひろばの代表者によるパネルディスカッションでは、「学校や市町との連携が難しい」、「毎回トラブルを起こす子どもに、どのように対応すればよいのか」など、ひろば運営の課題など子育て支援への熱のこもった話し合いが行われました。

（問）県少子対策課 078-362-4185

兵庫県民生委員児童委員大会を開催（3月13日）

「兵庫県民生委員児童委員大会」が、ポートピアホテルで開かれ、民生委員・児童委員ら福祉関係者 600 名が参加。

今回の大会では、「地域における子育て支援活動・児童健全育成活動の進め方」などをテーマに、これまで活動の成果を振り返るとともに、複雑多様化する住民ニーズを的確に捉え、住民の立場に立ってその期待に応えるための資質向上を目的に、パネルディスカッションが行われました。



現在、兵庫県内では、723 人の方が主任児童委員として、9654 人の方が民生委員・児童委員として活動されています。（問）県社会援護課 078-362-3181

「児童虐待防止推進協議会」を開催（3月14日）



普及啓発用リーフレット

児童虐待問題の早期対応に向けた体制づくりを推進するため、福祉、教育・保育、保健・医療、青少年、警察、こども家庭センターなど関係団体等の代表等 32 名で構成する協議会をひょうご女性交流会館で開催。

森県少子局長が「虐待防止に、地域、市町、県が一体となってネットワークを組んで取り組んでいきたい」と挨拶。前年度を 1.42 倍のペースで増加する虐待相談の現状や、こども家庭センターからの深刻化する虐待の状況報告を踏まえ、育児支援をはじめ親支援の重要性、地域と市町・県が一体となった普及啓発・早期発見・早期対応の充実強化が指摘されるなど活発な論議が行われました。（問）県児童課 078-362-3182

「アフタヌーンティで加古川えんむす日」を開催（加古川市）（3月11日）

加古川市では、加古川市連合婦人会が主催し、独身男女の出会いきっかけづくりとして、イベント「アフタヌーンティで加古川えんむす日」が開催。今回、加古川市として初めての出会いイベントであったため、企画・運営にノウハウを持つNPOの協力を得て開催され、定員 30 名のところに 100 名を超える応募があり、抽選で選ばれた 40 名の男女が



楽しい一時を過ごしました。連合婦人会は“世話好き隊”と称して異性と話をするのが苦手な方の相談に乗ったり、2人きりになる場面をセッティングしたりし、その甲斐あって、11組のカップルが誕生しました。

国際ソロプチミスト神戸が虐待防止街頭キャンペーンを実施（3月15日）



JR元町駅前での街頭キャンペーン

国際ソロプチミスト神戸は、昨年 11 月 16 日に、兵庫県と子育て応援協定を締結し、児童虐待などの SOS キャッチ運動や地域で子育て支援活動を行っています。

3 月 15 日には、20 名の会員が、街頭で、「子どもの命はみんなの宝、子どもを虐待から守りましょう」と道行く人に呼びかけながら、「児童虐待 24 時間ホットライン」のステッカー 1,000 枚

を配布。このステッカーは、「虐待などを知ったら、すぐに通報してほしい。」との願いを込めて作成されたものです。ステッカーを受け取られたご夫婦は、「子どもの尊い命は、社会全体で守ってあげる必要がある。」とカバンにしまわれました。

国際ソロプチミストは、管理職・専門職に就いている女性の国際的な奉仕組織で人権と女性の生活向上のために奉仕活動を行っています。ソロ（姉妹）とオプチミスト（最善）の 2 つのラテン語から生まれた名称です。



ステッカー

第 1 回女性医師の会フォーラム

「女性医師の輝ける未来のために」をテーマにフォーラムを開催。

日 時：平成 19 年 6 月 9 日 14:00 ~ 16:30

場 所：兵庫県医師会館 2 階大会議室（神戸市中央区磯上通 6-1-11）

主 催：兵庫県医師会・女性医師の会 後援：兵庫県

内 容： 基調講演

安井多津子（女性医師の会会長） 猪口邦子（前少子化・男女共同参画担当大臣）

シンポジウム「女性医師の働く環境改善に向けて」

コメンテーター 慶山充夫（神戸新聞論説副委員長）

行政の立場 清原桂子（兵庫県理事）

病院長の立場 清野佳紀（大阪厚生年金病院）

大学医局で働く立場 錦織千佳子（神戸大学皮膚科教授）

現場から 河田知子（姫路聖マリア病院）

申込方法：はがき又は F A X（必要事項：郵便番号・住所 氏名 年齢 電話 医師会所属の有無
「女性医師の会」会員の有無）

（問）651-8555 神戸市中央区磯上通 6-1-11 兵庫県医師会「女性医師の会・フォーラム」係 078-231-4114

幹事会だより（NPO と行政の子育て支援会議）



ニュースター創刊号

NPO と行政の子育て支援会議では、3 月 28 日に、ニュースターを創刊し、NPO90 団体、行政 29 団体の会員に発送しました。

創刊号では、昨年 8 月 25 日の支援会議設立以降の幹事会等の活動記録、支援会議の組織、設立記念フォーラムで実施したアンケートの結果などを紹介しています。また、ニュースターの愛称を募集していますので、奮ってご応募下さい。

また、5 月 17 日（木）13:30 より、特定非営利活動法人「キッズネスト」にて会員交流会を開催します。病児保育施設の見学や交流会などを予定しています。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

（問）特定非営利活動法人さんびいす（NPO と行政の子育て支援会議代表幹事）

0797-22-8896

P & G ジャパン(株) (神戸市)

P & G は、社会貢献の一環として、「NPO【仕事と子育て】カウンセリングセンター」を支援しています。これは、出産後も働き続ける女性が増え、多くの家庭で「仕事と子育ての両立」が大きな課題となっていることに対応した取り組みです。このNPOでは、女性とそのパートナーが両立について、

自分たちが何を大切にしたいかを考え、『さまざまな選択肢』を理解すること、主体的に選択して、自分自身の『ビジョン』を明確にすること、選択した【仕事と子育て】の実現への『環境づくり』と『気持ちの準備』を進めることの3つのポイントに焦点をあてて支援を行います。P & G は、部長・課長級の4分の1を女性が占め、女性の登用も進んでいます。自社の仕事と子育ての両立支援の経験に基づくアドバイスをNPOに提供するとともに、社員がボランティアとして活動に参加するなど、その活動を全面的に支援しています。これからも、「女性の充実感あふれる、いきいきとした暮らし」を応援していきます。



NPOの設立会見(H18.4.14)

NPO 法人日本ベビーサイン協会 (神戸市)



「この子、何を伝えたいんだろう？」赤ちゃんの気持ちを知りたいと思うのは親なら誰もが経験することです。赤ちゃんの気持ちが少しでも理解できれば、ママやパパの愛情はもっと深まり、思いやりをもった暖かい子育てができるのではないのでしょうか？日本ベビーサイン協会はベビーサインの普及活動を通して、世界中の親子が深い絆と愛に満ち溢れた関係を築ける、明るく豊かな育児環境の創造を目指す団体です。

現在、ベビーサイン協会では、ベビーサイン教室の開催、講師育成、講演会や研修への講師の派遣、メールマガジンによるベビーサインの情報提供などの事業を実施しています。

(問) TEL:078-332-7884 E-mail: info@babysigns.jp

NPO 法人淡路島ファミリーセンター(淡路市)

豊かな自然環境に生まれ人の心がやすらぐ淡路島でも、少子高齢化が著しく進展し、子育て世代をとりまく状況は、都市と大きな違いはないように思います。生まれ育ち、暮らして良かったと思えるような支えあい地域づくり活動の一環に子育て支援があり、障害のある子どもの家庭やそうでない家庭にも、サポーターが先輩ママとしてご家庭に訪問して保育を行いながらご家族からの育児の相談もお受けしています。

出産や病気のための入院中のお母さんに代わり兄弟姉妹のお世話や、お母さんの沐浴のお手伝い。あるいは育児休暇明けの1歳のお子さんの保育所送迎などを行い、比較的年齢の低いお子様の家庭で家族の頑張りの中でも、あと一步、サポートを望まれる方々のご利用が多く、サポーターもご家族とともにお子様の成長の喜びを分かち合っています。



先輩ママとのお散歩

(問) TEL:0799-70-1472 E-mail: maaruku-awaji@gaia.eonet.ne.jp

編集部からのお願い

・メール送信を希望される方は、下記編集部のアドレスあて「少子対策本部ニュース・メール送信希望」と送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局：〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1
(健康生活部少子局少子政策課) TEL:078-362-4232 FAX:078-362-3011
E-mail: shoshiseisaku@pref.hyogo.jp